

品質保証

品質不適切を教訓に強化した品質基盤のもと、お客様と共存同栄する

2022年に化学の会社としてスタートしたUBEは、新体制にてグループ一体で品質経営に取り組んでいます。過去の品質検査に係る不適切事案を機会に強化してきた盤石な品質基盤のもと、2022年4月に「品質不適切行為の再発防止策に対するUBEグループの取り組みについて」をコーポレートWebサイトに掲載しました。

品質不適切事案後の2020年に初開催したUBEグループ品質大会は、2022年で第3回を迎えました。第3回大会は、品質不適切事案を忘れることなく品質経営をより一層推進する決意をもってテーマを「風化防止」としてUBEグループを挙げて

開催し、大会参加者とUBEグループの品質への取り組みを共有、風化防止の決意を新たにしました。

また、これまでのお客様との約束と信頼を守る品質保証活動に加えて、スペシャリティ事業へのシフトのために、品質（顧客満足）を軸にUBEの企業存在価値を最大化させる品質経営への取り組みをステップアップし、品質がUBEの強みとして認識されるようにスピードを上げて取り組んでいきます。

今後も、全社員が一丸となって「質」を重視する経営を推進し、お客様との約束と信頼を守ります。さらに、攻めの品質経営で新たな価値創造に挑戦することによりお客様の期待に応え、お客様との共存同栄を目指していきます。

製品安全

UBEグループの製品安全(化学物質管理)体制

事業活動に関わるすべての部門が適切な化学物質管理を行うために管理体制を構築しています。化学物質管理法令の地域性を考慮し、UBE(日本)がアジア圏、欧州製造拠点であるUBE Corporation Europe(スペイン)が欧米圏を管轄する体制としています。日本では、化審法・安衛法等の法令対応において、届出報告の不備を防ぐ仕組みをより強固なものにすべく、人材教育(ソフト面)ならびにICTの活用(ハード面)をさらに深化させていきます。輸出量が増大している中国・台湾・韓国に対しては、各現地法人の専任担当者との綿密な連携をとりながら、各国法令改正にも確実に対応しています。

化学物質管理法令遵守

製品安全を品質の一部と位置づけ、品質マネジメントシステムに則って管理を行っています。SDS(安全データシート)^{*1}作成支援システム、自社開発の化学品情報総合管理データベースU-CHRIP(以下、U-CHRIP)などICTを活用し、自社取扱物質のハザード情報^{*2}や法令対応状況を管理しながら、法令遵守を確実なものとしています。U-CHRIPは毎年、システム上の課題や不足する機能等を抽出するとともに各国化学品管理法令の改正内容も反映しながら、機能を改良・強化していくことで、継続的改善に取り組んでいます。

サプライチェーンコミュニケーション

製品ライフサイクルを通じて化学製品を安全に使用していただくために、各国の法令に準拠した現地語版SDS・製品ラベルを全製品についてお客様に提供するとともに、主要製品のSDSをウェブサイトより入手できるようにしています。さらに、グリーン調達^{*3}の実現に向けて、製品中の含有有害化学物質を把握し、お客様への伝達を行っています。

2022年度より、万一起こり得る輸送事故・物流安全への対応のため、24時間緊急連絡サービスを全世界で採用しています。

化学品のリスク評価に関する長期技術研究支援

ICCA(国際化学工業協会協議会)がグローバルな自主活動としてスタートした研究助成事業LRI(Long-Range research Initiative)^{*4}を日本化学工業協会が開始しています。UBEは2011年度より出資を開始し、化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する長期的な研究を支援しています。

用語解説

*1 SDS(安全データシート): メーカーが化学物質および化学物質を含んだ製品を提供する際に公布する、化学物質の危険有害性情報を記載した文書。

*2 ハザード情報: 化学物質が持つ潜在的な危険性情報。

*3 グリーン調達: 製品を製造するために必要な原材料や部品、製造設備などについて、環境負荷の少ないものを優先的に選んで調達すること。

*4 化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究を長期的に支援する国際的な取り組みで、日本国では日本化学工業協会が推進している。